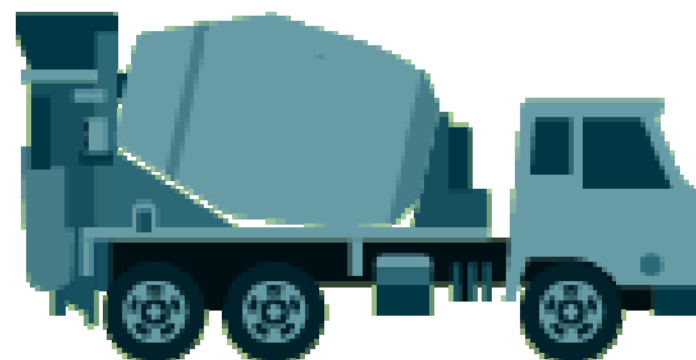


KURS・*KLWS*

安全対策講習会

プラントからの安全運行及び
荷積みから荷下ろしまでの安全対策



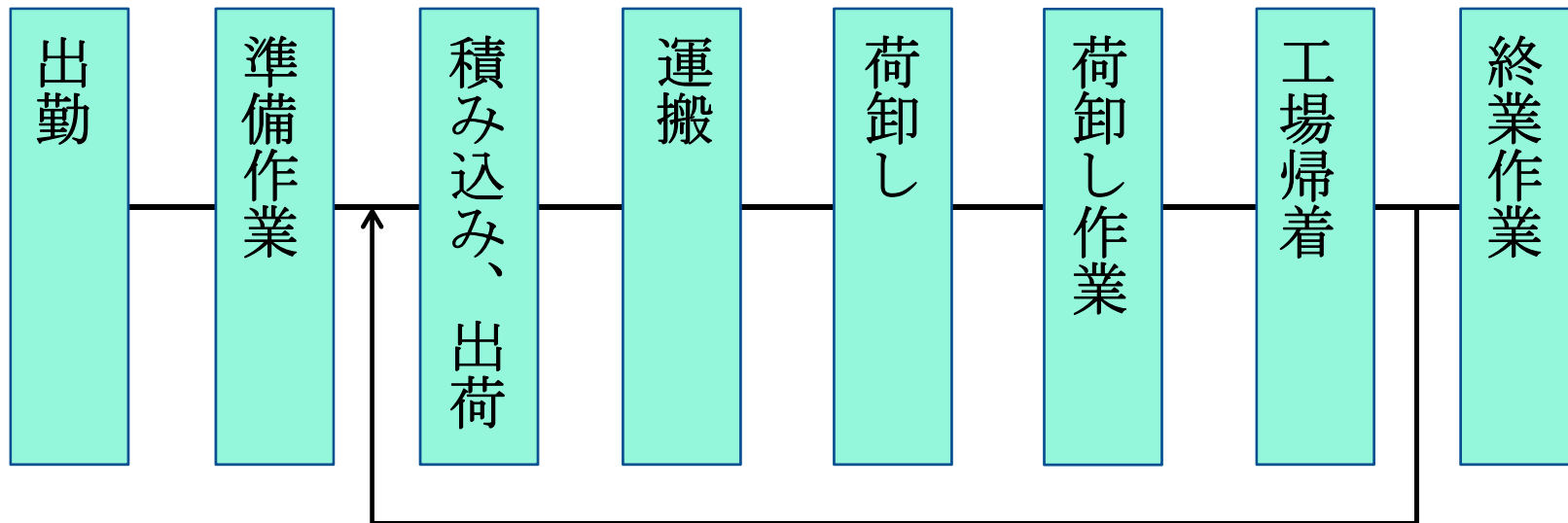
KURS (近畿生コン関連協議会)
KLWS (関西労供労組協議会)

内容

- 基本的な遵守事項
- 安全運転の心得
- 安全作業の心得
- 車両の点検整備要領
- 交通事故発生時の現場措置

基本的な遵守事項

1日の業務フローチャート



就業前後でアルコールチェック
が必要です。



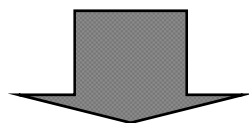
事故防止のため指差し呼称を
しましょう。

1-1 出勤

毎日変動する出荷予定によって配車計画が組まれています。

もし、貴方が休んだり遅刻すると

※事前に打合せした予定通りに納入出来なくなり、
大勢の方に大変ご迷惑を掛けてしまいます。



休むときは、早めに届け出しましょう。
出勤は、時間に余裕を持って行動しましょう。
出勤後は配車に変更がないか確認しましょう。



1-2 準備作業

1 日の仕事は、朝の段取りで決まります

1 アルコールチェック

所定の機器を使いアルコールチェックを行います。

2 始業点検

決められた点検項目を確実に実施します。

3 運行前点呼

疾病、疲労、その他安全な運転ができないおそれがないことを確認します。

免許証・車検証はありますか。

安全保護具はそろっていますか。 ……など

今日の仕事は前もって知っておこう

運搬経路・現場の出入り口
待機位置・注意事項

1-3 積み込みから出発まで

1 積み込み

前回の洗浄残水が残っていないか、積み込み前に必ずドラムを逆回転させて確認しましょう。

- ドラムに洗浄水はありませんか。
- ドラムの回転方向は、間違いないですか。
- 停止位置・ブレーキは正確に。

ドラム内に洗浄残水があると品質不良、強度不足の原因に！

2 伝票の確認

- 納入先のステッカーを外から見やすい場所に置きましょう。
- 車番はあなたの車に間違いないですか。
「納入現場名」「施工業者」「配合」「積載量」を確認しましょう。

3 出発

- 積み込み完了合図を確認してから出発です。
- シュートは確実に固定されています。
- ドラム回転防止ロックはかけていますか。
- 異物混入を防ぐためのホッパーカバーをかけたか。

運転は、規則を守り安全運転で



1-4 運搬

基本を守った安全運転で輸送しましょう

- 1 運転中はドラムを止めない
- 2 運転中は加水しない

運転中の加水は厳禁です。製品（コンクリート）の中に水が入ると品質に大きく影響します。

3 連絡・報告

- 交通渋滞や車両故障、事故等で現場到着が遅れたり、現場待機が長くなったりした場合には、工場にその状況を連絡・報告してください。

4 事故の防止

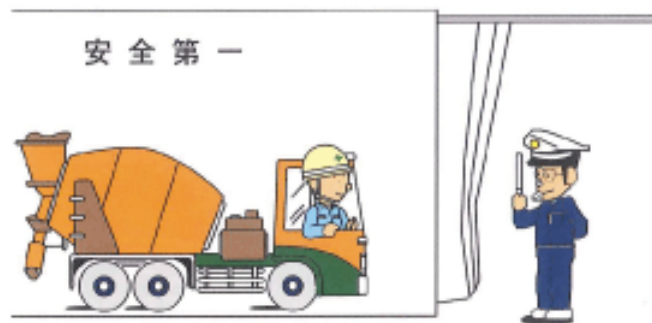
- 交通事故の防止
- 荷こぼれの防止

急カーブでのスピードの出しすぎは、横転事故のもととなります。
注意！！



5 現場への入場

- 現場に入る前にヘルメットを着用しましょう。
- 現場への入場は、ガードマンや係員の指示に従い、構内走行は最徐行で運転しましょう。



※ 事故の発生は現場の入退場時が最も多く、注意が必要です。

1-5 荷卸し

現場内では、現場のルールを守り、現場係員の指示に従って行動し、車両事故や労働災害発生の防止に努め、感謝の気持ちと誠意をもって対応しましょう。

1 納入書の提出

- 製品の荷卸し場所に間違いがないかを確認し、着時刻を記入した納入書を提出し、現場責任者に確認してもらいましょう。



2 攪拌

- 荷卸し前に高速攪拌しましょう。

3 安全帯の徹底

- 安全帯が必要な場所では、フックを掛けることを忘れずに！

4 加水の禁止

- 生コンへの加水は厳禁です。

5 現場での事故防止

- 搬入路に危険があるときは、現場監督者によく説明し、指示に従いましょう。
- 現場では足元の不安定・落下物等の危険があります。現場の指示事項を守り、事故防止を心がけましょう。傾斜地の駐車は、ブレーキ・車止めを確実にいきましょう。

1-6 荷卸しが完了したら

1 報告

- 「荷卸し完了」の結果を工場に連絡するとともに次車の呼び込みを忘れないようにしましょう。

2 受領書の受け取り

- 荷卸しが完了したら「ありがとうございます」の言葉と、受領書にサインしてもらうことを忘れないようにしましょう。



3 荷卸し後の洗浄

- 洗浄作業は、現場指定の場所で。
※汚水や砂利をこぼさないよう注意しましょう。
- 洗浄する際は、周りの迷惑にならないように注意しましょう。



「路上での洗浄作業は厳禁！！」

4 追加注文

- 追加注文があった時は、間違いやすいので、現場の責任者から直接、工場出荷係に連絡してもらいましょう。

5 帰路

- シュートの格納やホッパーカバーの開閉は確実ですか。
- 洗車で使用した道具等を置き忘れていませんか。

**荷が軽くなっても安全運転で帰りましょう。
安全確認はしっかりと！**

1-7 工場帰着

1 残水処理

- 帰着したらその都度、残水を確実に排出します。
- 残コンがある時は、出荷係に報告し、指示を受けます。
- 業務日報へ排出確認のチェックを入れます。

2 出荷待機

- 所定の順番に出発できるように順序良く整列し、次の出荷の指示を待ちます。

1-8 終業作業

1 終業洗車

- 洗車は、出荷係の業務終了指示を受けてから実施します。
- 保護具を着用し、スリップ、転落に注意して洗車します。

2 終業点検

- 翌日の作業に支障がないか点検します。
異常のある場合は、担当上司に報告します。

3 終業後点呼

- アルコールチェックを実施し、当日の運行状況など必要事項を報告します。
- 運転日報に所定の事項を記入し、車検証、キーとともに提出します。

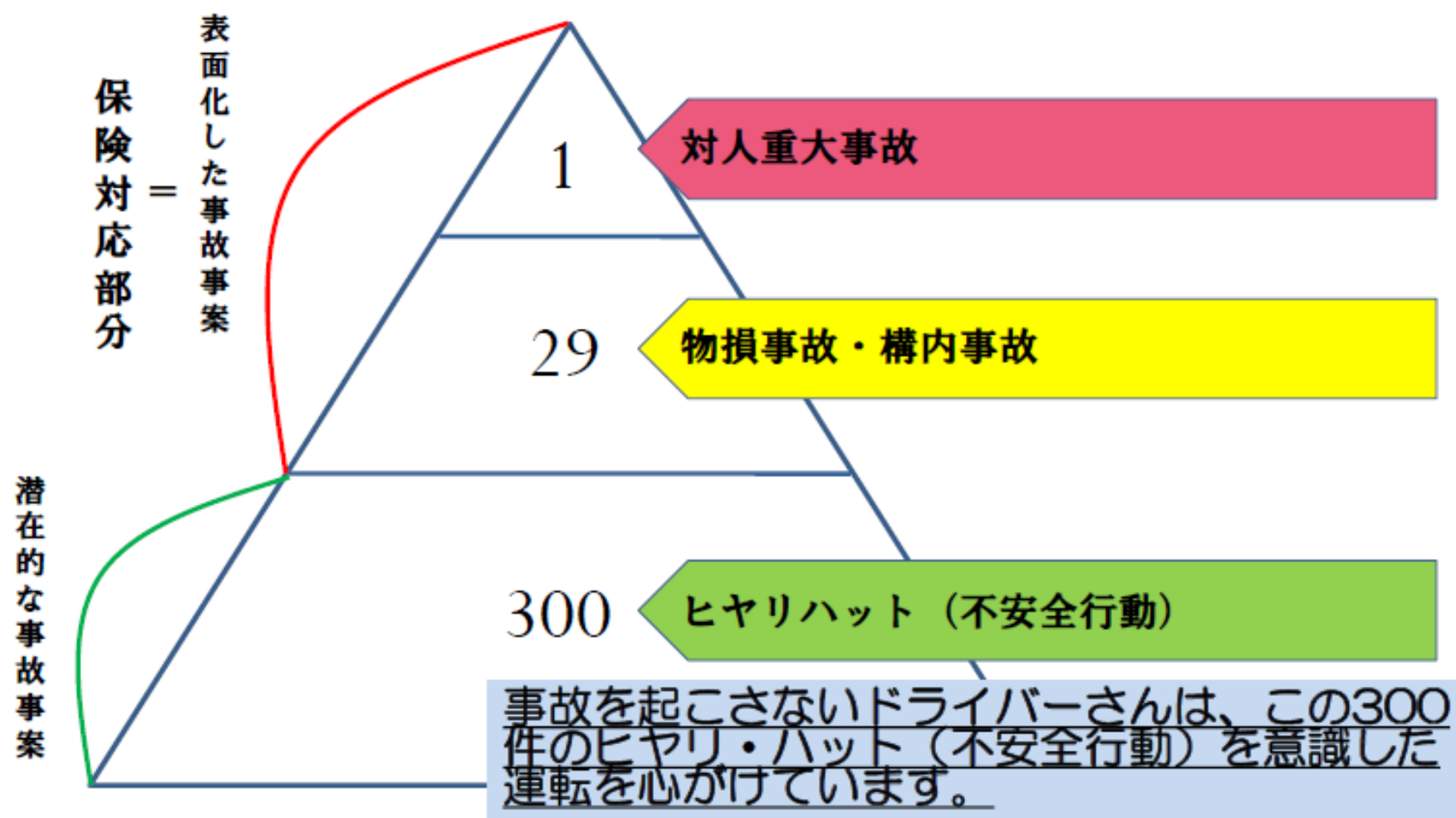
明日の出勤時刻と配車状況を確認しましたか。家では十分に睡眠をとり、明日も元気で頑張りましょう。



安全運転の心得

ハインリッヒの法則

『1の重大災害の下には、29の軽症事故があり、その下には300の無傷事故がある』



事故の発生原因（精神的・肉体的）

①油断

「前方不注意」「安全不確認」などの要因を作る。

②焦り

「速度超過」「無謀運転」を引き起こす。

③過信

慣れによる、運転操作が「危険運転」を生み出す。

④疲れ

「漫然・脇見・居眠り運転」につながる。

安全運転の心得

2-1 運転マインド、マナー・モラルの基本

1 思いやりと譲り合いの気持ち

- ① 「交通ルール」は、道路を安全かつ円滑に利用するための最小限の決まりです。
- ② 常に「思いやり」と「相手に譲る」姿勢でハンドルを握るのがプロドライバーです。

2 おごりの意識を捨てる

- ① ミキサー車は運転席が高い位置にあるので、無意識のうちに他車や歩行者を見下ろして運転することがあります。
- ② 「強者は弱者を助ける」という立場にたった運転が大切です。

3 油断をしない

- ① 「毎日この道を通ってるから」という油断は大敵です。
- ② わずかな緊張の緩みが取り返しの付かない事故を起こします。

4 過信しない

運転に自信を持つことは大切です。しかし、「自分は運転がうまい」という過信は、安全運転の基本を見失い、事故の原因となります。

5 「急ぎ」や「あせり」をおさえる

- ① 「急ぎ」や「あせり」は危険な運転となりがちです。
- ② 「急ぎ」や「あせり」があると自分本位の運転となり他車への配慮を忘れることがあります。

6 「カッカ」や「カリカリ」しない

- ① 「カッカ」や「カリカリ」は、的確な判断力を失うだけでなく、冷静な運転ができなくなります。
- ② 「絶対に事故を起こしてはダメ」と考え、冷静な運転を行うことが大切です。

**見えない向こうに危険がひそむ。スピード落として
警戒・確認**

2-2 安全運転の基本

1 安全速度は必ず守る

交通事故の大半はスピードの出しすぎが原因です。

スピードを出し過ぎると

- ・ 車線からはみ出す
- ・ ミキサー車は転倒しやすい
- ・ 衝突を避けられない
ことになります

2 カーブの手前でスピードを落とす

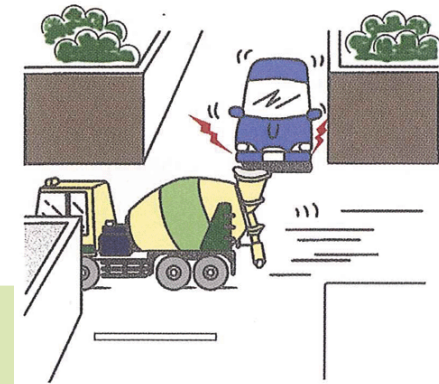
カーブでの事故を防止するには

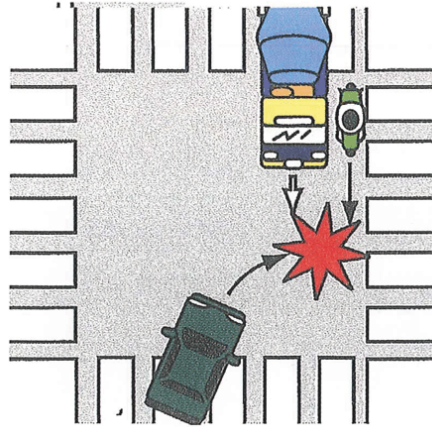
- ・ カーブでは、対向車を予知して十分に速度を落とし、
遠心力の作用を弱める
- ・ カーブでは、センターラインをはみ出さないよう注意する。

3 交差点では必ず安全を確かめる

■ 交差点内の主な事故形態と事故原因

右折時の側面事故	<ol style="list-style-type: none">1. 直進優先を無視した2. 信号が変わると同時の無理な右折3. 直進車のスピードを見誤っての右折
右・左折時の歩行者との衝突	<ol style="list-style-type: none">1. 横断歩行中を無理して横切った2. 横断歩道の手前で一時停止を怠った3. 歩行者が死角に入って見えなかった
出会いがしらの衝突	<ol style="list-style-type: none">1. 一時停止や徐行をしなかった2. 思い込みによる運転 (だろー運転)
追突	<ol style="list-style-type: none">1. 車間距離が足りなかった2. スピードが出すぎていた3. 大型車が前にいて信号が見えなかった4. わき見をしていた



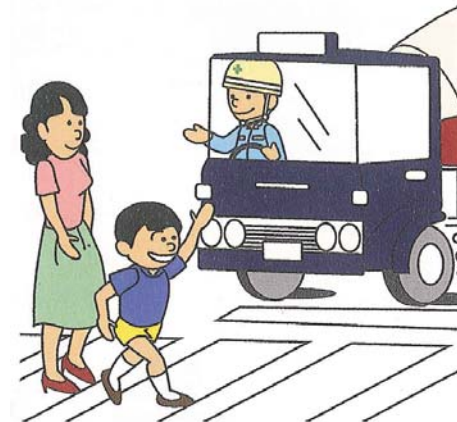


安全確認を心がけましょう

- ・ 一時停止と徐行の励行
- ・ 強引な通過の禁止
- ・ 信号の変わり目に注意
- ・ 内輪差・死角に注意

4 一時停止で横断歩行者と自転車の安全を守る

- ・ 横断歩行者や自転車がいる時は必ず一時停止して安全に横断させましょう。
- ・ あたたかい思いやりの気持ちで守ってあげましょう。



ゆずりあい 誰でもできる 心がけ







5 飲酒運転は絶対にしない

- ・ プロドライバーとしての自覚を持ちましょう。
- ・ 重大事故を起こした時の社会的影響を考えましょう



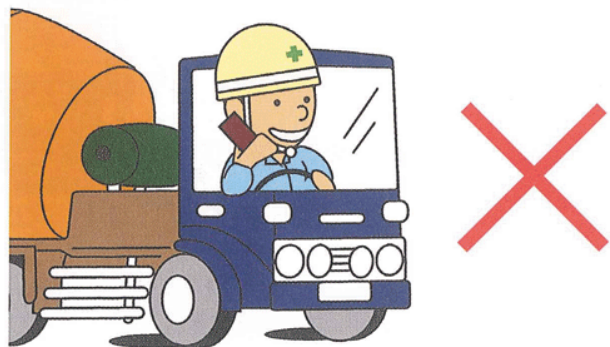
アルコールの1単位

純アルコール約20グラムを含む酒類

					
ビール	日本酒	ウィスキー	ワイン	チューハイ	焼酎
アルコール5% 500ml缶	15% 1合 180ml	43% ダブル1杯 60ml	12% 小グラス2杯 200ml	7% 350ml缶	25% コップ半分 100ml

- ・ 危険ドラッグは絶対に服用しない!
- ・ 眠くなるような薬（風邪薬など）の服用注意!

6 走行中の携帯電話は使用禁止

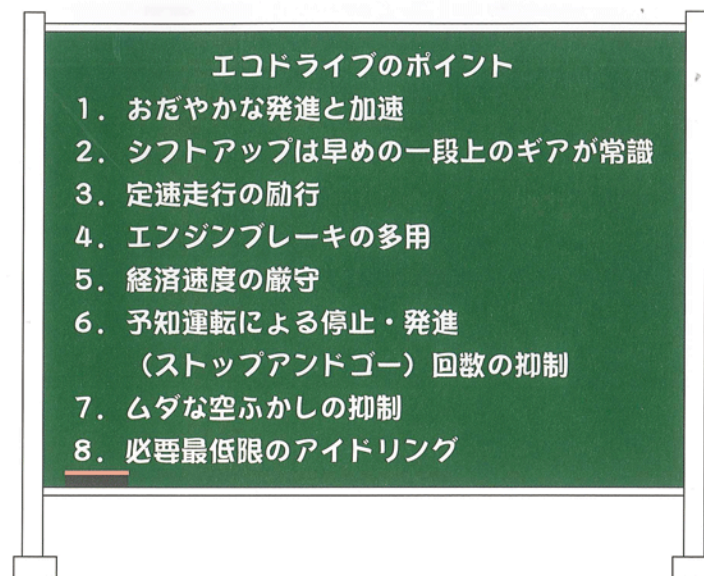


7 バック時は確実に安全を確認しましょう

ミキサー車の事故は、バック時の不注意が多い

- ・ バックする時は、一旦停止して周囲の確認を
- ・ ガードマンなどの他人の誘導を過信しないように
- ・ ポンプ車につけるときは、ゆっくりと

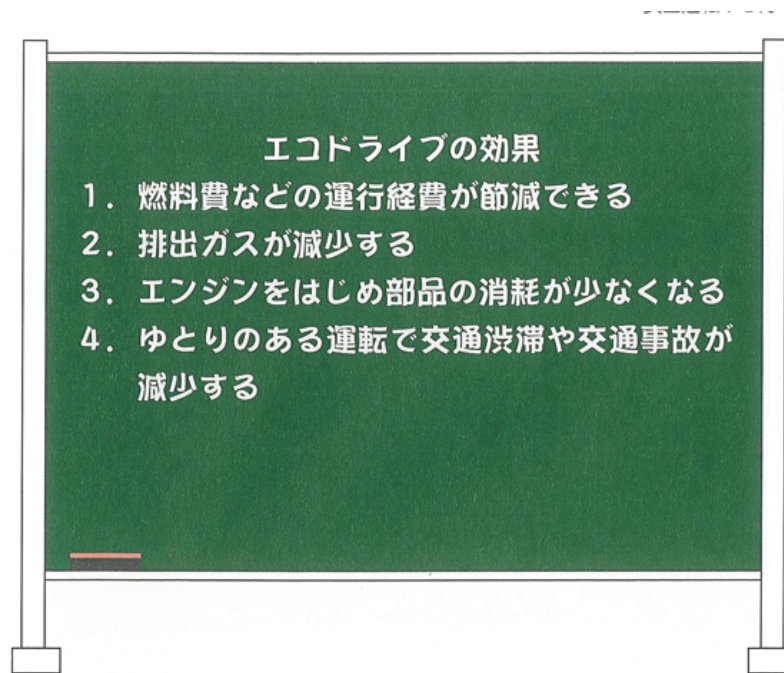
2-3 エコドライブの励行



1. 環境配慮の運転を心がけましょう

ミキサー車は生コン輸送に欠かせないものですが、その一方で排出ガスによる大気汚染や地球温暖化などの環境問題の発生源ともなります。

一人ひとりが普段から「エコドライブ」を実施することが大切です。



2. エコドライブの効果

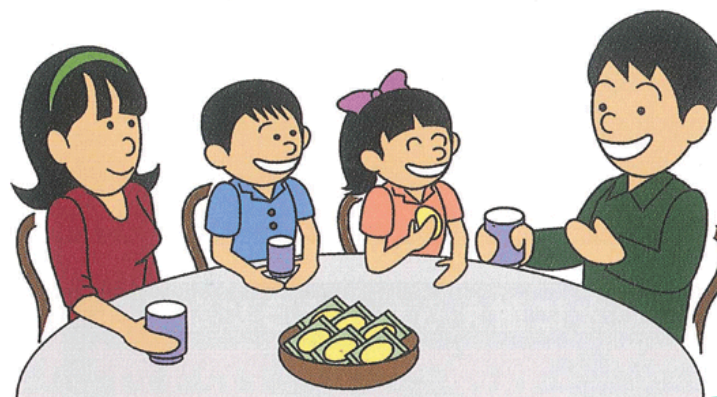
「エコドライブ」は、環境保全に必要なだけでなく、交通事故の防止や運行経費の節減などさまざまな効果をもたらします。

2-4 正しい生活と健康管理

事故は体調が悪いときや疲れているとき、精神状態が不安定なときに起こしやすくなります。プロドライバーとして精神面・健康面の自己管理を徹底しましょう。

- ・ バランスのとれた食事、睡眠・休養を十分にとって、規則正しい生活をしましょう。
- ・ 深酒に注意し、酒量管理に努めましょう

日に一度、わが家の
話題 交通安全



2-5 事故防止のポイント

1.事故の起こる原因は、双方にある

交通事故には必ず原因があります。事故を起こした場合、その時の事故当事者の双方に不注意や車間距離が短すぎたなどの理由が考えられます。

2.常に意思を明確にして

他車の動きを注意することも大切ですが、自分の意思をはっきり知らせる事です。車線変更や右左折等では、意思を表明し相手が気づいていることを確認してから動作を開始しましょう

3.運転中は真剣勝負

事故は、危険を予知して運転に集中すれば必ず防ぐことができます。運転中は真剣勝負と思いましょう。

4.自分への甘さが事故につながる

「事故は他人のせいだ」「交通規則を守っていても運転できる訳がない」「交通事故を起こした場合の被害や犠牲をわかっていない」— 自分の運転技術への過信や他人への配慮のなさが事故を引き起こします。

5.待つことに耐えられるようになるろう

他車の運転が気になって、いら立って運転すれば事故につながります。それよりも1秒待つ余裕をもって運転すれば事故は防げます。事故のきっかけを作らないことが大切です。

6.決められた順路を走ろう

出発する前に順路を確認しておきましょう。近道を通ったり、納入先を探したりしながら運転することは、事故の原因となります。

7.常に6台の車を意識して運転

自分、左右の側方、後車、前車、そして前車の前方を注意しましょう。周囲に異常がないか、常に気配りが大切です。

8.青色信号は、通行可の合図でしかない

信号が青になったのは、通行を許可しただけで、安全を保証したものではありません。危険の有無を確認してから発進しましょう。

9.子どもの後から子どもが飛び出す

大きい子どもが道路を横切ったら、すぐ後から小さい子どもが続いて横切ることがあります。危険を予測し油断しないことが大切です。

10.老人が道路を横断する

老人は、視力、判断力が落ちています。歩く速度も遅いものです。老人が横断を始めたら、停止して待ちましょう。

事故防止の考え方

さまざまな交通場面（ヒヤリ・ハット）

だろう運転

かもしれない運転

危険予測の意識が低い

危険予測の意識が高い

事故の可能性

確率が高い

確率が低い

発生した事故

積み込みの際、補助ホッパーに生コン車のホッパーが接触し、破損した

事故事例シーン



原因

後方を確認しないまま、
積込ホッパー下へ進入した。

要因

- ・慣れていたため、後方を確認しなくても進入できて、停止位置もわかっている。
- ・小型車用の補助ホッパーが、あるとは思っていなかった。

対応策

- 慣れた車、慣れた場所でも、進入先（後方）を確認しながらバックする。
- 自車の積み込みの合図があっても、進入先（後方）を確認する。

発生した事故

現場の洗い場でシュートとスカートを洗っているとき、
体のバランスをくずし、転落してケガをした

事故事例シーン



原因

安全帯のフックを、取付金具に掛けていなかった。

要因

- ・下段ステップに降りたので、安全帯のフックを掛けなくてもよいと思った。
- ・次の車が待っていたので、焦っていた。
- ・濡れたステップで滑り、足を踏み外した。

対応策

- 安全帯のフックを必ず中段の取付金具に掛ける。
- 焦らず、ポイントを押さえて素早く洗浄する。

発生した事故

受け入れ時、生コン車をバック誘導していたら、
ポンプ車とシュートにはさまれて負傷した

事故事例シーン



原因

バックミラーに映らない位置
(死角)で誘導を行った。

要因

- ・ 誘導が不慣れで、死角に入ってしまった。
- ・ ホッパーと生コン車との距離感をつかめていなかった。
- ・ 「止まれ」の合図をドライバーに的確に伝えられなかった。
- ・ ホッパーの少し手前で、一旦停止をしていなかった。

対応策

- 死角に入らない（自身の左側に生コン車が停車するよう誘導を行う）。
- ホイッスルと身振り手振りの合図「動く」「ゆっくり動く」「止まる」を、ミーティング等で共有・確認しておく。

◆指差呼称？

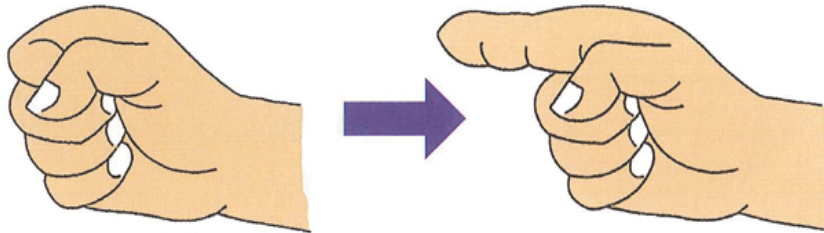
「ボタン押し」実験

指差呼称の効果実験より(鉄道労働科学研究所)

- ① 何もしないで、ボタンを押す
- ② 指差しをする(ボタンを指し示す)
- ③ 呼称をする(声に出して確認)
- ④ **指差呼称をする**

指差し呼称

運転行動の要所要所(危険のポイント、誤操作のポイント)で、自分の確認すべきことを「○○ヨシ!」と、対象を見つめ、しっかり指差して、はっきりした声で呼称して確認することをいいます。



親指を中指にかけた縦拳の形から、人差し指をまっすぐに突き出すと、しまった形になります。

◆指差呼称の効果

「ボタン押し」実験

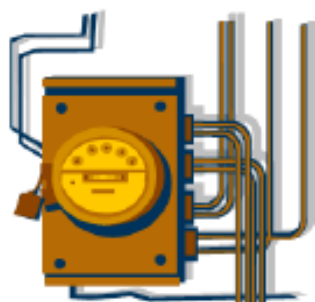
指差呼称の効果実験より(鉄道労働科学研究所)



結果は

押し間違いの発生率が6分の1以下に！

押し間違いを300件のヒヤリ・ハットに例えるなら50件に減少し、ハインリッヒの法則に基づけば、軽症事故、重大事故の発生率がゼロになります。



安全取組

◆指差呼称の エラー防止効果



何故エラーを防げるのか ①

① 注意の方向づけ

操作・作業や確認の対象に注意を能動的に
向けることができる。

② 多重確認の効果

目だけの確認よりも、耳・口・腕と指の筋肉を動か
すことにより、感覚を鋭くし、精度を上げることがで
きる

安全取組



◆指差呼称の エラー防止効果

何故エラーを防げるのか ②

③ 脳の覚醒

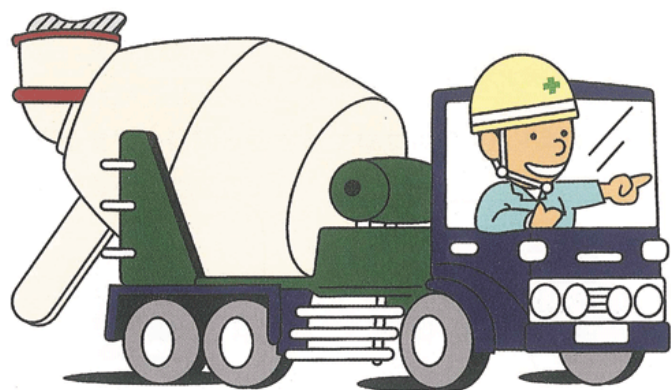
口や腕などの運動は、脳を覚醒させる働きがある。眠気やぼんやりした頭をすっきりさせることができる。

④ 焦燥反応の防止 (習慣的動作のエラー防止)

指差呼称による一連の動作にタイムラグを生じさせることで、焦りや慣れによるエラーを防止することができる。

交通危険予知活動の効用

交通危険予知活動は、運転場面における危険を危険と気づく「感受性」を鋭くし、危険に対する情報を共有し合い、さらにそれをミーティングで解決していく中で「問題解決能力」を向上するものです。指差し呼称を行うことにより「集中力」を高め、チームワークで実践への意欲「ヤル気」を高めます。



運転場面の要所要所で、心を込めて指差し呼称をして安全を確認します。

この安全先取りの危険予知活動が事故防止に役立ちます。

感受性を鋭くする

問題解決能力を向上させる

集中力を高める

ヤル気を強める

交通安全職場風土づくりをめざす

安全作業の心得

ミキサー車の乗務員は、交通の安全はもちろん、作業での安全にも十分に留意し、労働災害の防止に努めなければなりません。

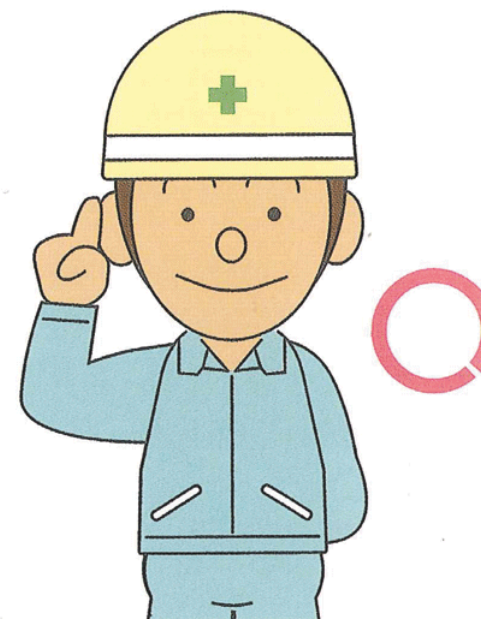
3-1 服装、保護具

1 服装は

会社指定の作業着を着用し、ボタン・チャックはキチンと締めて作業にかかりましょう。

2 履物は

靴は安全靴を履きましょう。* 長靴も安全靴が望ましい。車の中でもサンダルなどは禁止です。



清潔な作業着を正しくキチンと着用することにより、身も心も引き締め気持ちよく安全に作業ができます

3 保護具は

会社指定のヘルメットを着用し、あごひもをきちんと締めましょう。

**自分のためにあるのが保護具
正しく着けて無災害**



3-2 現場での安全

2 車両 暴走の防止

サイドブレーキを確実にかけます。傾斜地に停止して荷卸しするときは、輪止めを利用します。みだりに車両から離れないようにしましょう。



2 運転台・ステップからの乗降時



現場では足場周りがよくないときがあります。路面の状態を確認してから、ゆっくり乗降しましょう。

3 シュートの取り扱い

シュートを格納する際、シュート部分に手を挟まれる事故が多発しています。また、メインシュートと補助シュートとの折れ曲がり部分に指を挟まれる事故も起きています。十分に注意して取り扱いましょう。



4 安全帯の使用

高所の作業（2m以上）では安全帯を使用しましょう。フックを掛けることを忘れずに。

高所からの転落に注意しましょう！

3-3 洗車中の安全

1 フェンダーへの昇降時

ステップに足を確実にかけ、手すりを掴んで昇降しましょう。

2 はさまれ、まきこまれ防止

投入口からドラム内部を洗浄するときは、ガイドローラーなどの回転部に注意しましょう。
洗車場は狭いので、他車の動きに注意しましょう

3 冬季凍結時

洗車場周辺が凍結しているときがあるので、スリップに十分注意しましょう。

保護具はしっかり着用しましょう！



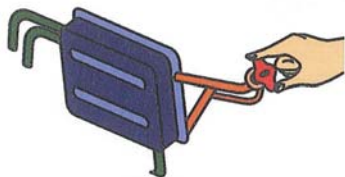
車両の点検整備要領

「安全・正確・迅速」に運搬するための大切な運行前点検です。
決められた手順で手早く行って下さい。

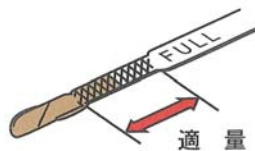
4-1 下回りのチェック

- 1 車下にオイル漏れ、水漏れはないか？
- 2 汚水受けからの漏れ、破損はないか？

4-2 エンジンルームの点検



1. リザーバタンクの水量は適当か。



2. エンジンオイルの量は適当か。



3. ファンベルトの張り具合は適当か。

4. ウィンドウォシャの液量は適当か

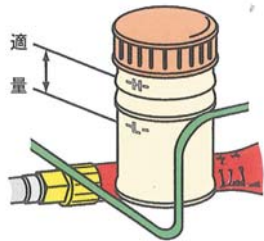
4-3 運転席での確認



5. エンジンのかかり具合は良いか。異音はないか。



6. 空気圧の上がり具合が不良でないか。



7. サイドブレーキのひきしろは適当か。

8. ブレーキオイルのリザーバタンク内の液量は適当か。



9. ブレーキペダルの踏みしろは適当か。



10. ブレーキペダルからの排気音は正常か。

11. ウインドウォッシャ液の噴射状態は良いか。

12. ワイパーの払拭(ふっしょく)状態は良いか。

13. 低速・加速の状態は適当か。

14. 排ガス浄化装置の点検



4-4 車周りのからの点検



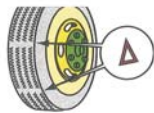
15-1. タイヤの接地部のたわみの状態により空気圧が不足していないか調べる。



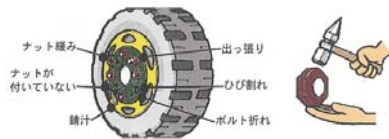
15-2. タイヤに亀裂や損傷がないか。



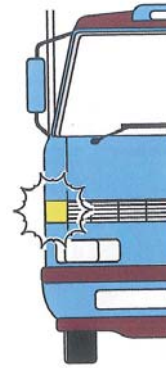
15-3. 異常摩耗がないか。



15-4. タイヤの溝の深さに不足がないか。



16. ディスクホイールの取り付け状態



17. 各ランプ類、方向指示器の点灯、点滅具合と汚れ、損傷がないか

18. バッテリー液量は適当か。

19. エアタンク内に凝水はないか。

20. 尿素タンクの残量、損傷、漏れ。(車種による)

4-5 ミキサー装置の点検

21.ドラム内のコンクリートの付着は定期的に点検しよう。

22.駆動装置の点検。

- ◎ レバー関係の動きはよいか。
- ◎ 油圧装置の油漏れはないか。
- ◎ 水ポンプの作動状況はよいか。

※ ミキサー車の性能について

ミキサー車の性能検査は1回/3年実施することが規定されています。ドラム内部にコンクリートが付着していたりブレードが異常摩耗したりしていると性能が維持されません。定期的に点検しましょう。

- 点検整備の行き届いたミキサー車で良い製品を納入しよう。



交通事故発生時の現場処理

乗務員は、常に安全運転を励行し、交通事故の根絶に心がけなければなりません。万一、人身事故または対物車両事故が起きたとき、その内容の程度を問わず最寄りの警察に届け出なければなりません。これは道路交通法第72条に規定されている乗務員の義務ですが、同時に後々の保険の取り扱いのためにも必要です。

次の措置方法を参考にし、落ち着いて正しい処置をとりましょう。

5-1 負傷者の救護

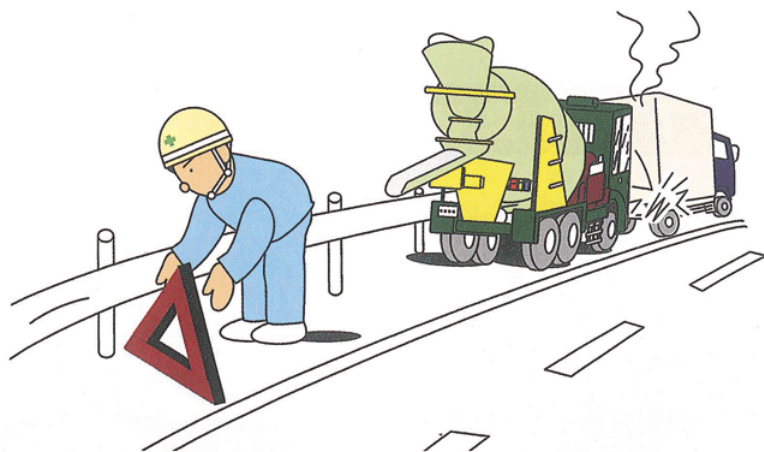
負傷者がいる場合、負傷の程度の観察と適切な救護をし、救急車を呼びます。

負傷者の所持品があるときは、これを大切に保管しておきましょう。

5-2 二次災害の防止

車両事故を放置しておくと、他の車が追突する等の二次災害のおそれがあります。

車両を安全な場所に移動させ、エンジンを切り、後方に表示板を置きます。
荷を積んでるときは、エンジンは停止できません。



乗務員は警察の指示に従い、みだりに現場を離れないこと

目撃者がいる場合は、その人の氏名、連絡先を聞いておきます。

5-3 警察への報告

警察官に次の事項について報告します。

- 事故の発生場所と時刻
- 負傷者の有無と程度
- 事故現場でとった処置

※小さな事故でも必ず連絡するようにしましょう。



5-4 会社への連絡

会社に次の事項を報告し、管理者の指示を受けます。

- 1.乗務員（自分）の氏名
- 2.事故車両の車両番号
- 3.いつ（時間）
- 4.どこで（場所）
- 5.事故の内容（人身、車両、物件）
- 6.相手先の住所、氏名、車両番号
- 7.双方の被害損傷程度
- 8.事故の原因
- 9.車は動かせるか、救援活動が必要か
- 10.荷は積んでいるか

5-5 その他の注意

- 事故現場において、乗務員が事故の相手方と示談に関する交渉をしてはいけません。
- 荷を積んでいる場合、許される限りすみやかに処置をとり、生コンの劣化を防止します。

※ 事故処理が終わったら、所定の事故報告書に記録し、管理者に提出します。



車間距離

あなたのゆとりの

バロメーター

5-6 緊急時の処置

1 踏切でのエンスト等による停止時

- 警報機のある踏切では、非常ボタンを押します
- 非常ボタンのない踏切では、発煙筒を使って合図します。
- 電話、その他の方法で最寄り駅へ連絡します。



2 高速道路での故障等による停止時

- 車を路肩に寄せて止めます。
- 発煙筒を使用して後続車に合図し、後方に停止表示器材を置きます。
- 非常電話、又は携帯電話で車を止めた場所（非常電話の場合は、電話番号）、故障の内容、車種、氏名等を連絡します。
- 救援を待つ間は、安全な場所に避難します。

3 大地震発生時

1 運転中に緊急地震速報を聞いたら

- 周りに注意して、急ブレーキを踏まず減速し、ハザードランプを点けて道路端や駐車場に停車しましょう。

2 運転中に大地震が発生したら

- ハンドルがとられないように、しっかりと握り、車を道路の左側に寄せて停車します。
- 停車したら、ラジオなどで地震情報を聞き、指示があればそれに従います。
- 荷があれば、ドラムを回し、現場に行けないと判断した場合は、工場に連絡し支援を仰ぐようにしましょう。
- 車をおいて避難するときは、キーはつけたまま、ドアのロックはしないようにします。

重大事故の結果

会社の信用低下 場合によっては、取引停止
高額の賠償金 自動車保険料アップ

あなた自身も

運転を任せられないというレッテルをはられる
かもしれません

まあいいや！ めんどくさい！ これくらいなら！
はやめませんか？